



和装本  
9  
ワ 3  
4300

松平河守湯川逢字

和装本  
9  
ワ 3  
4300



156

松平信長身教湯江藩子

4300  
4300





今方及雅夷比海用之江越三多彼地  
 未并比之生之夷人一夜食位之二重  
 整人備之道也其一人之使の江舟舟以  
 江以人々々口使比ふる教音然るは  
 明日午時候に帰し厚く指授するは  
 五百石の懐中巾杯を以て白底の物  
 指授するは江越三多の中一に江越三  
 多今候之事と知る或る程の物と云  
 多の事と指授と取はれり却る江越三

天

かゝる水程ははらるるなるらるる人々を討てて  
とらふは仕別作更事此業と人夷人とも  
細心は察の致しし事おへ候是をこととせり  
町人計りし事計りし事左候をこととせり  
らゝ成れお使いらるる業は沙救樹にお成る  
沙救人更事候はらるる業は沙救樹にお成る  
沙救のなるはらるる業は沙救樹にお成る  
更事候はらるる業は沙救樹にお成る  
耕種種目おはらるる業は沙救樹にお成る  
御心よりおはらるる業は沙救樹にお成る  
ともお成る業は沙救樹にお成る  
右林更事方中しりお成る業は沙救樹にお成る  
物事お成る業は沙救樹にお成る  
業は沙救樹にお成る業は沙救樹にお成る  
目よりお成る業は沙救樹にお成る  
業は沙救樹にお成る業は沙救樹にお成る  
一 仕江耕種はらるる業は沙救樹にお成る  
業は沙救樹にお成る業は沙救樹にお成る

以孫ての難知事

但耕作し乃其營造是成夫連て固食ふ  
をふさうりとのと中たを能く得たうの致善  
布をより作ひて退る農事とを能くし  
推別し進み方里成切務は下り山原を  
お金とらぬ

世度し湯はさるるに後後を説かせ

るより海はさるるにその金と連

採り金板後中なる染事とを能く

しるし件知る減事とを能くし

能く能く申朝に事の本月の在る

しひと先合をいりら以の介指後の始

し本世をあるに能く述べて事とを

一人人も人しとて介まの事

別紙に定例し事とを述べて随ひ

なりわは能く述べて事とを

能く用ひし其の能く推し事とを

能く食と能くせし能くし事とを

切と事と能くせし能くし事とを

切と事と能くせし能くし事とを

波部舟をさし御甲乙三信は徳は  
厚るるを以て法を知れ先法を以て職を  
務むるを以て法を知るを以て事

一 夷人とも通流便化感一 法を以て  
和人の風情をお成せと申者極み  
余人も亦一以て極む者なりといふ  
家徳も極むるに申す者お成せ  
此信を以て在て申す事

但し後ては言ふ事ありと申すは法  
の儀なり  
いふ必し字は極むる極むる極むる  
方にお懸時を以て極むるに女の外  
お成り後て申す事あり

一 よとて字の儀は  
兄弟親類は活しく朋友は信を以て  
子とて信り且いふはの文字は  
再々信の儀は

一 彼此のちるる者徳成との書と大勢  
とらるる成との書と大勢

あつりしき事どもかくとてはるるをいふは  
人別りなきに似てはるる事も混りて改交  
ふのてはるる事ども合をりていふ事  
氣持ふと拍りつらん信はる神の及理も  
身へまゝ男女も揚をすゝ之子孫を自問。  
惟存はたふといふ事ども疑はる神はる事  
まじりと合をりていふ事

一 夷人とも存知し者どもいふ事ども

具ふ事ども事どもいふ事ども  
死亡し者ども事ども事ども

石ころや事ども事ども事ども  
事ども事ども事ども事ども  
意事ども事ども事ども事ども  
事ども事ども事ども事ども  
事ども事ども事ども事ども  
事ども事ども事ども事ども

石ころや事ども事ども事ども





